

労農連帯を一層強め、三里塚・ジェット闘争を貫徹しよう!

3.18.20 千葉地本 破壊=再登録を許すな!

革マルとそれに追いつく一部反動分子は、中央本部林大鳳委員長の名をかたり、「三月一日九日」二〇日にかけて、全支部に『オルグ』に入る」との手紙を一方的に送りつけ、公然たる千葉地本破壊、動労の分裂を開始した。われわれは、「二・一〇臨大」「三・一二定地委」における満場一致の決議のつとり、今回の明らかな「千葉破壊=再登録目的のオルグ」をキッパリと拒否することを明らかにする。

デタラメきわまりない機関運営!

「オドシ」とペテンの『手紙』の内容!!

しかもこの『手紙』なるものは一番早いもので「三月一日」、ほとんどのものが「三月一七日以降」に各支部役員個人宅に到着するように投函されているというデタラメかつアリのバイ的なものである。

われわれは、このような重大な事柄を事前、事後一切の電話すらもしないで、「地本無視で強行」するという常軌を逸した機関無視のファッショ的やり方を断じて認めることはできない。

①「オドシ」と「甘言」の両刀使い

中央本部は「手紙」の中で、「幟救や共済給付をストップする」とか、「組合員の資格を剥奪する」と露骨なオドシをかけつつ一方で、「一緒にスクラムを組んでゆこう」とか、「一緒に道を歩こう」と権力者の常套手段であるオドシと甘言によって、全支部にゆさぶりをかけ、千葉地本破壊をねらっている。

②「交流」をブチこわしたのは本部だ!!

さらに「手紙」は、「千葉は、はっきりした理由を示さず交流オルグを拒否してきた」とか、「千葉は決まったことを守らないで、自分の主張だけいつている」などのべている。これこそ白を黒といくるめるデマそのものだ。

千葉地本は、「千本組織第二六・二七号」をもっている「五項目の解明要求」を中央本部に提出しているではないか。これに対して今日に至るも中央本部は、誠意ある態度を全く示していないではないか! 一・三一交流会議に千葉地本が

参加出来ないようにしたのは、一体、全体、誰だったのか?! 東京地本全支部に掲示された「三・五千葉地本再建オルグ」は、一体、誰が策動したのか?! 三・一二千葉地本定期委員会を破壊しようとしたのは、一体、誰だったのか?! 本部こそがその責任を果すべきだということとは、誰の眼にもはっきりし切っているではないか。

動労の変質・破壊=分裂を一貫して策してきたのは革マル派だ!

革マルとそれに追いつく一部反動分子こそが排除の論理をもって全国の戦闘的組合員・活動家に対するテロ・リンチをくりかえし、暴力支配を強行し、動労の私物化と引き廻しを行っているのだ。

彼ら革マル分子は、年末年始以降、あるときは「本部青年部」の名をかたり、あるときは、「関東青年部」を名のり、再三再四「千葉地本再建」=千葉地本破壊策動をくりかえしつつも、その都度、粉砕されてきた。ついに彼ら革マル分子は、第一〇二回定中委決定をタテにして三・一二定地委における「暴力」をデッチ上げ、それを口実として、「千葉地本執行権停止」を確認し、三・一八(二〇)千葉地本破壊「オルグ」を強行せんとしているのである。

われわれは、千葉地本破壊・動労分裂を目的とした、このような「オルグ」を絶対に許さない! 一四〇〇名組合員は、全支部一丸となってあらゆる力を結集して闘い抜くことを明らかにするものである。

各支部に、攪乱・調査・脅迫のための電話ひんぱん!!

新小岩支部

三月五日 夜

「田端機関区の計画助役・松崎ですが三月三日と四日の五一〇ダイヤと五一二ダイヤの乗務員の名前をおしえてほしい」との電話がかかってきた。不審に思った支部役員が田端機関区に問い合わせたところ松崎(?!)という助役は存在せず、そのような電話もしていない、との返事。見えた謀略的的口だ。

佐倉支部

三月五日 昼過ぎ

「オガタ」と名のる者から佐倉機関区当直に電話があり、山下支部長の勤務を聞いた上で、更に支部の活動や役員の動きなどを「助役に」こまごま聞き出そうとしてあやしまれ、失敗して、電話を切った。

館山支部

三月十三日

去る三月八日に、「魚釣り」の

話を持ちかけてオルグに釣り込もうとあさはかに策動し、館山支部役員Aさんに見ぬかれ、失敗した。『日刊・五五号参照』『東京地本新鶴見支部・田岡』がまた、電話してきた。今度はBさんが応対。
△田岡V Aさんはいるか。
△BさんV いらない。
△田岡V じゃ、A(呼びすて)の住所・電話番号をおしえてくれ。
△BさんV おしえられない。
と、答えると捨ゼリフをのこして電話を切った。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ!